

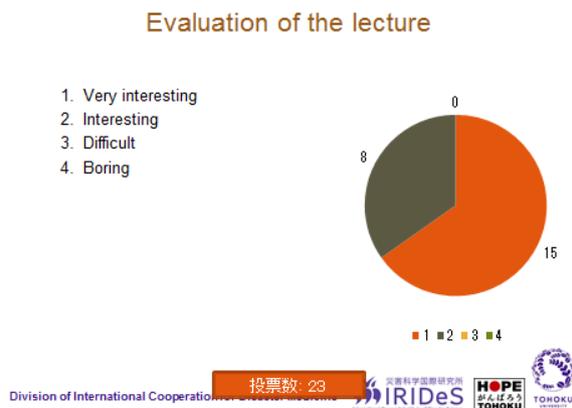
アンヘラス大学で災害医学の特別講義を行いました。(2014/12/6)

場所：アンヘラス大学（アンヘラス市フィリピン）
 テーマ：「台風ハイエン被害、放射線災害」

12月6日（土）にフィリピンのアンヘラス大学修士課程において、江川新一教授が災害医療に関して特別講義を行いました。アンヘラス大学と災害科学国際研究所は部局間協定を結んでおり、実践的防災学に関する知識の共有とともに、災害医学を普及する足掛かりとして10月の調印式のときの講義に引き続いて2回目となるものです。

今回は、フィリピンの台風ハイエンによる被害の概要と災害研が IRIDeS Fact Finding Mission to the Philippines として行った災害調査のうち、災害医学部門として行った病院被害調査を中心に、保健・医療機関の大規模災害に対する備えはどのように考えるべきかを講義しました。災害研が発行した Initial Report の内容は、大変な興味をもって学習され、台風被害の概要、強風と高潮、大雨によりもたらされた被害の範囲とリモートセンシング、住民の避難行動のアンケート調査などは、まさに災害研が行った貴重なデータとして受け止められました。また、医療機関の被害実態調査と次回1月に再調査を行うことにより、保健医療の備えについての考え方を共有することができました。

また、東日本大震災で起きた放射線災害について、災害の概要と、放射線の人体・環境への影響、予防的ヨウ素剤配布に対する考え方についても大きな興味を持って受け止められました。フィリピンでは Bataan 島に原子力発電所が建設されましたが、完成間近になって安全性と経済性に不安があるため、運用されたことはありません。江川教授は、生体に与える影響を長期間かけて正確に評価することの難しさ、医療従事者といえども放射線を正しく理解し緊急被ばく医療を実践することが容易ではないこと、一般の人々に対しても放射線に対する正しい知識を啓発することの大切さについて講義を行いました。2回目となる今回も、インタラクティブなツールとしてアンサーパッドを用いた講義を行い、高い評価を得ました。



台風ハイエンに関する講義の評価



熱心に聴講・質問するアンヘラス大学保健学修士(MPH コース)の社会人学生たち
 文責：江川新一（災害医学研究部門）